

「マヌカとオリゴの最新情報」を報告

抗がん・抗アレルギー作用など明らかに

コサナ



コサナ(東京都中央区、03-6262-1512)

は10月31日、「マヌカとオリゴの最新情報」をテーマにセミナーを開催し、同社の寺尾啓二社長(写真)がマヌカハニーの抗がん作用やα・オリゴ糖の血糖値・血中脂質上昇抑制や抗アレルギー作用、そしてマヌカハニーαオリゴ糖パウダー

(MAP)の抗菌作用など、最新の研究成果を報告した。マヌカハニーの抗がん作用については、抗

酸化物質のシリンゲ酸メチルが活性酸素の一種・スーパーオキシドアニオンラジカルを消去するところが判明しており、実際に抗がん剤と併用した試験では、抗がん剤単体で使用するよりも乳がん細胞の増殖抑制効果が高まるとともに、正常細胞へのダメージが低下したことも明らかにした。

一方のα・オリゴ糖については、単糖および多糖を摂取した際の血糖値や血中コレステロール、中性脂肪の上昇抑制作用を確認した一方、一般の難消化性デキストリンよりも少ない摂取量で有効性を発揮することから「スーパー難消化性デキストリン」と定義。特に飽和脂肪酸だけを選択的に除去するところが分かっており、動脈硬化の抑制や腸内細菌層の改善にも有用であるとした。

抗アレルギー作用については、α・オリゴ糖が腸内で短鎖脂肪酸に分解されることで制御性T細胞を増殖させ、ぜんそくやアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を改善することが分かっているが、α・オリゴ糖にマヌカハニーを加えたMAPにすることで相乗効果を発揮することが分かった。特に、MAPはグラム陽性菌・陰性菌どちらにも抗菌作用を有するため、歯周病菌や虫歯菌、アクネ菌、ピロリ菌、サルモネラ菌などに有効であると結論付けた。